

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 1 月 30 日 (2020.1.30)

【公開番号】特開 2019-39562 (P2019-39562A)

【公開日】平成 31 年 3 月 14 日 (2019.3.14)

【年通号数】公開・登録公報 2019-010

【出願番号】特願 2018-188034 (P2018-188034)

【国際特許分類】

F 1 6 J 15/10 (2006.01)

F 1 6 L 23/02 (2006.01)

【F I】

F 1 6 J 15/10 L

F 1 6 J 15/10 T

F 1 6 J 15/10 B

F 1 6 L 23/02 D

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 12 月 16 日 (2019.12.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

シール部材を介して第 1 接続部と第 2 接続部を接続するものであって、
 前記第 1 接続部の接続端面と前記第 2 接続部の接続端面の両方または一方が、
 前記接続端面に開口する流路壁と、
 前記流路壁の径方向外側に前記流路壁の軸線方向に沿って突設された環状突起と、
 前記環状突起の径方向内側に設けられた内装着溝とを備え、
 前記シール部材が、
 環状に形成され、
 両端面又は一方の端面に、前記環状突起が圧入される環状溝を備える
 接続部シール構造において、
 前記内装着溝は、
 前記環状突起の基端部の径方向内側に前記環状突起に対して鋭角に設けられ、前記流路
 壁に接続する内テーパ部を有すること、
 前記シール部材の内周面は、
 前記環状溝が開口する端面側に位置する端部に沿って形成され、前記内テーパ部に圧接
 するように傾斜する内圧接テーパ部を有すること、
前記内装着溝を備える前記接続端面は、
前記環状突起の径方向外側に設けられた外装着溝を有すること、
前記シール部材は、
前記外装着溝の内壁に対して径方向外向きに圧接する外側圧接代を有すること、
前記外側圧接代は、前記内圧接テーパ部が前記内テーパ部に圧接する内側テーパ圧接代
よりも小さいこと、
 を特徴とする接続部シール構造。

【請求項 2】

請求項 1 に記載する接続部シール構造において、

前記外装着溝は、

前記環状突起の基端部の径方向外側に前記環状突起に対して鋭角に設けられた外テーパ部を有すること、

を特徴とする接続部シール構造。

【請求項 3】

請求項 1 又は請求項 2 に記載する接続部シール構造において、

前記シール部材の外周面は、

前記環状溝が開口する端面側に位置する端部に沿って形成された外圧接テーパ部を有すること

を特徴とする接続部シール構造。

【請求項 4】

請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 つに記載する接続部シール構造において、

前記シール部材は、前記環状突起が前記環状溝に圧入された場合に、前記環状突起の基端部との間に環状のすき間を形成すること、

を特徴とする接続部シール構造。

【請求項 5】

請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 つに記載する接続部シール構造において、

前記シール部材の内周面端部を支持する支持片が、前記内テーパ部により、前記流路壁に沿って環状に設けられ、前記環状突起の基端部側に位置する部分の径方向肉厚が、前記環状突起の先端部側に位置する部分の径方向肉厚より大きいこと、

を特徴とする接続部シール構造。

【請求項 6】

請求項 1 乃至請求項 5 のいずれか 1 つに記載する接続部シール構造において、

前記外側圧接代の位置は、前記環状溝の内壁と前記環状突起とが圧接するシール圧接代よりも、前記環状突起の基端部側であること、

を特徴とする接続部シール構造。

【請求項 7】

請求項 1 乃至請求項 6 のいずれか一つに記載する接続部シール構造において、

前記シール部材は、径方向外側に位置する外周面が、前記外装着溝の前記軸線方向に沿った面に近接する面を含んでいること

を特徴とする接続部シール構造。

【請求項 8】

請求項 1 乃至請求項 7 のいずれか一つに記載する接続部シール構造で使用されることを特徴とするシール部材。